

令和4年度高齢者あんしんセンター事業経費決算について

1. 業務委託内容

高齢者あんしんセンターでは、下記の①～④の地域支援事業に係る業務等を委託している。なお、委託業務のほか、高齢者あんしんセンターにおいては、指定介護予防支援事業者としての指定を受け、予防給付に係る介護予防支援業務も実施している。

- ① 総合相談支援業務
- ② 権利擁護業務
- ③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務
- ④ 介護予防事業

2. 令和4年度収支決算について

(1) 令和4年度各高齢者あんしんセンターの収入について

ア. 基本委託料等

- ・ 基本業務
 - 年額 緑風園 ; 23,936,000 円
 - 長生園・萱振苑 ; 20,944,000 円
 - 他 12 包括 ; 17,952,000 円
- ・ 啓発経費 年額 157,361 円
- ・ 地域包括支援センター運営システムサーバーリプレイス設置経費
年額 241,560 円

イ. 実績加算分

- ・ 実態把握委託料（徘徊高齢者家族支援事業実態把握委託料含む）
- ・ 特別定額給付金未申請者訪問勧奨業務委託料
- ・ 地域型介護予防教室事業委託料
- ・ 家族介護教室事業委託料

ウ. 介護予防支援費及び介護予防ケアマネジメント費

(2) 令和4年度高齢者あんしんセンターの事業経費決算の総計

ア. 収入 3億7,661万6,097円

イ. 支出 3億7,661万6,097円

全ての高齢者あんしんセンターにおいて精算を行っている。15か所の高齢者あんしんセンター（12法人）全てで、法人から繰り入れをしている（人件費や、施設維持管理費の施設内按分のため）。

3. 事業報告

①介護予防支援事業

- 地域のカフェに参加して包括や介護予防についての啓発を行った。また、初めて ICT を活用した健康教室を開催した。
- 介護予防教室は毎回定員を超える申し込みがある。毎月参加される方が大半であり、新規の参加者が少ない。
- 集団開催以外に、電話や訪問で介護予防・家族介護に関する指導・助言を行った。

②総合相談支援業務

- 認知症や圧迫骨折の介護相談、介護申請に係る相談が多い。また、医療機関入院中の面会できない家族からの相談が多く、医療機関への連携を図り家族調整を行うことが多かった。
- 本人・家族・親族からの相談件数が増加。独居に対する不安や介護負担を理由に、新規申請と施設入所に関する相談割合が増加している。認知症に関する相談も年々増加している。
- かかわりの中で、長年の閉じこもりや 8050 問題、精神疾患、孤立などの問題が顕在化することがある。

③権利擁護業務

- 被虐待者が重介護のケースはほとんどなく、軽度や自立しているケースが多い。長年の家族関係から虐待に至っているケースも見られる。
- 認知症に対する男性介護者の介護疲れ、ストレスが虐待の原因となるケースが多い。
- 警察からの相談が増えている。養護者が精神障がいを抱えるケースが多い。つなげる支援室とも連携した。

④包括的継続的ケアマネジメント業務

- 身寄りがない、家族の関わりが希薄などで問題解決が困難なケースが増加。課題解決に時間を要することも多く、ケアマネジャーだけでの対応が困難となっている。
- 家族関係が複雑なケースや困難事例が増えており、解決まで長期化することが多い。
- ケアマネジャーからの相談は成年後見制度や金銭管理、虐待など権利擁護に関する相談が多い。問題が複雑化しており、必要に応じて同行訪問や随時会議を行いながら継続的に支援している。

⑤多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築

- 必要な機関との連携、認知症初期集中支援チームとの協働で早期に医療機関につなぐことができたケースもあるが、時間を要することの方が多い。
- コロナウィルスによる制限が緩和され、多くの関係機関と連携する機会が増えた。

⑥地域ケア会議の実施

- 地域ケア会議では、委員の方からの意見をもとに課題を整理し、解決策を検討した。

- 身寄りがない高齢者や家族関係が複雑なケースは介入が難しく、支援が長期化する傾向にある。認知症、虐待や困難事例などの解決のためには、関係機関との連携が必要で、これからも積極的に随時会議を開催していく。